



やりくり下手は棚に上げておきますが、「時間欠如」が挙げられます。限られた時間内に様々のことをこなすことは易しくなかった、というのが実情です。

一方で、「困ったときの神頼み」ではないですが、頼りになる「プラットフォームの存在」にどれだけ助けられたことか。10年ひと昔といいますが、設立10年を過ぎた本学会で培われたノウハウとメンバー間の信頼関係は、間違いなく大会運営上の貴重な知的財産であり、その豊富さに気づかされました。要するに、プラットフォームから何艇もの助け船を出してもらったお蔭で、「大会丸」は目的地である対岸にたどり着けた、ということでございます。P2Mが重視するプラットフォームの重要性を改めて認識いたしました。

そのようなプラットフォームのノウハウは、再現可能な「バトン」として次のランナーに手渡したいと思っています。大会副委員長やプラットフォームのメンバーらの協力を得て、「P2Mの大会運営フレームワーク」とでも称すべきバトンを作成中であることを付言させていただきます。大会運営に対するMECEと効率向上への寄与が期待されます。では、研究発表大会の様子を簡単にご紹介いたします。

## 2. 研究発表大会

メインテーマを「競争力強化につなげるP2M活用」として、各会場では、「競争力とりくスマネジメント」「イノベーションとP2M」「産学官連携」そして「プログラムマネジメント」の4つのテーマについて、興味深いプレゼンと活発な討論が行われました（下の写真）。P2Mの基礎的研究とともに、P2Mを実際に活用するための研究成果がいくつか報告

されたのが特徴的でした。発表が今以上に活発化するように知恵を絞りたいと思いました。

## 3. 講演

小原重信学会会長が挨拶のあと(1)吉田邦夫学会名誉会長の講演を挟んで(2)安永裕幸氏（産業技術総合研究所理事）の基調講演が行われました。

吉田名誉会長（写真左）は、今後のP2Mについて、「ツール化の促進と、ブーストゲート法などの役に立つ事例を増やす努力が必要」と提言されました。安永裕幸氏（産業技術総合研究所理事、写真右）は、産総研の活動について、過去の成功事例や、「タコツボからの脱却」など日本が改善していくべき事項について鋭く指摘されました。会場で拝聴していた私のノートは、両先生の講演内容のメモで一杯になりました。



## 4. 学会表彰

学会功績賞と発表奨励賞の2つの表彰が挙行されました。学会功績賞は、田隈広紀氏（千葉工業大学、写真左）と中山政行氏（東京農工大学、写真右）の2名が受賞されました（右の写真中央は、小原学会会長）。



また、発表奨励賞は、田隈広紀氏（千葉工業大学）、三宅由美子氏（北陸先端科学技術大学院大学）、大澤美紀氏（名古屋工業大学）、中山政行氏（東京農工大学）、沖浦文彦氏（千葉工業大学）でした。表彰内容は、本学会のホームページでご覧ください。

## 5. 2016年春季総会

基調講演に続いて、2016年春季総会が開催されました。総会成立の宣言の後、学会会員数、平成27年度学会活動・事業収支の報告、さらに、平成28年度学会活動・事業収支計画の発表など、6議案が審議され、すべて承認されました。ちなみに会員数は、正会員140名、法人会員5名、学生会員16名、名誉会員3名でした。日本内外へのP2M普及のため、現会員が一致団結して増員の努力を行ってまいりましょう（写真左から、山本副会長、小原会長、亀山副会長）。



## 6. パネルディスカッション

大会最後に「P2Mを利用した産学官連携のあり方を探る」をテーマとするパネルディスカッションが行われました。パ



ネラーは、ゲストとして株式会社井口一世の井口一世社長に加え、ファシリテータの亀山秀雄副会長、谷口邦彦理事、そして、私の4名でした。多分に手前味噌ですが、壇上にいた私の頭の中には、アドレナリンがたくさん分泌されました。楽しくもたいへん有意義な討論ができたと思っています。会場におられた参加者の皆さまはどのような感想を持たれたでしょうか。



## 7. 懇親会

最後に会場をイタリアンレストランに移し懇親会が行われました。参加者は、互いに親交を深めておられました。基調講演者の安永理事、プラットフォームのメンバーとして学会運営を手伝ってくれた千葉工業大学の学生たちも参加してくれました。懇親会のビールは風呂上がりの一杯に負けません。素晴らしい時間に感謝いたします。